

7割弱の人が無料ネット動画を視聴、有料ネット動画を牽引するのは20代

～ インターネット動画の可能性について考える ～

株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所

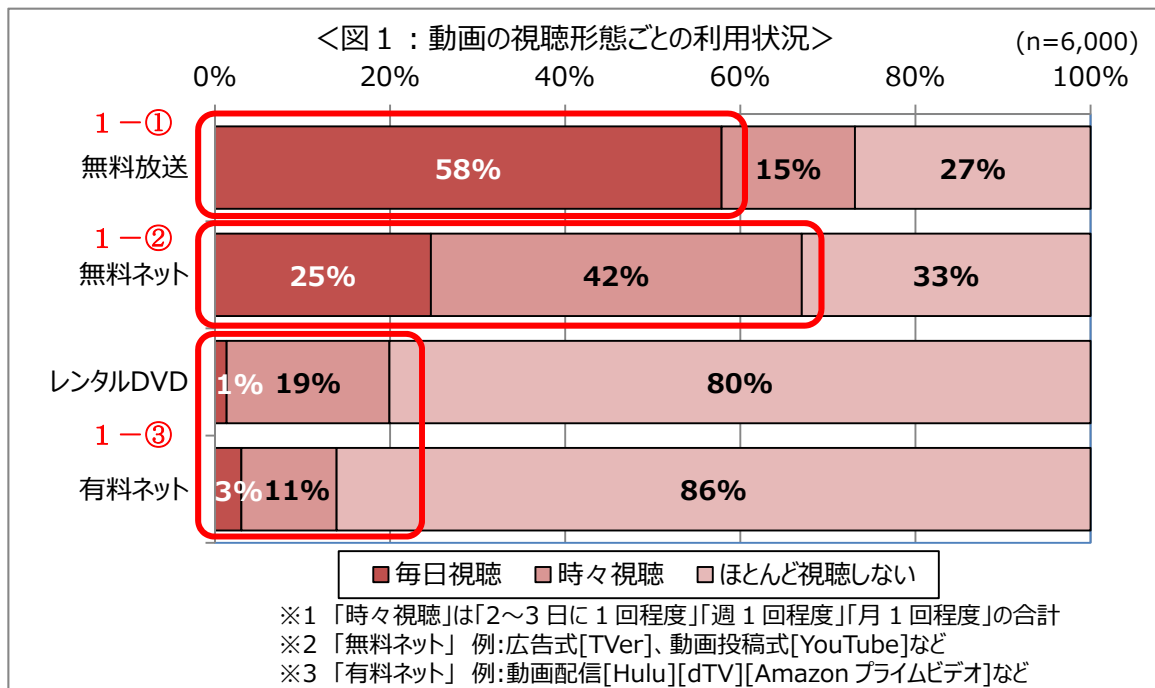
■ 調査結果

< 1：無料ネット動画は67%、有料ネット動画は14%の人が視聴 >

スマートフォンに代表される ICT デバイスの多機能化や高機能化、無線ネットワークの高速化、あるいはWi-Fi スポットの増加など、インターネットと動画を取り巻く環境は充実しつつある。そこでモバイル社会研究所では動画視聴の実態について、その形態（後述）に着目しつつ調査した。第一弾として視聴形態ごとの利用状況など、基本的なデータについて紹介する。

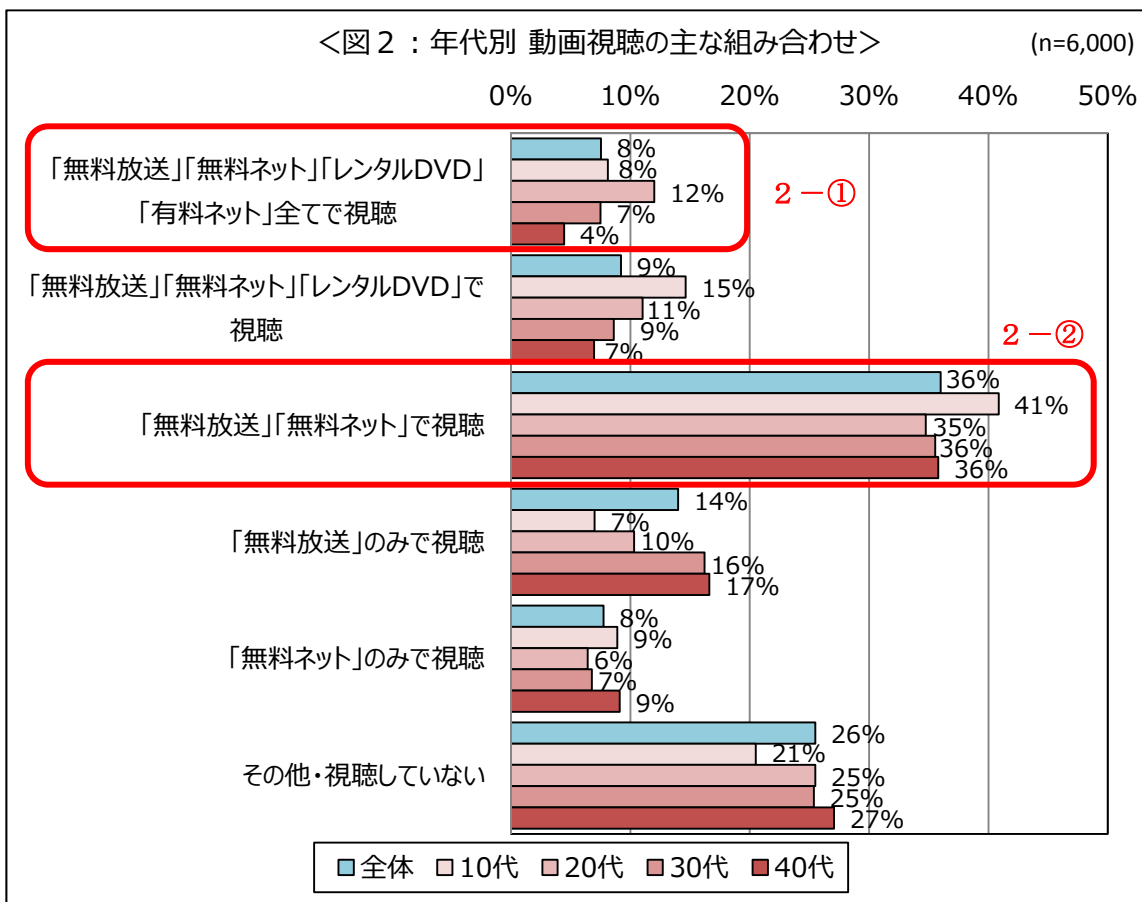
今回の調査では視聴の形態を（1）地上波など無料で視聴する「無料放送」、（2）インターネットを通じ無料で視聴する「無料ネット」、（3）実店舗に赴き有料でレンタルする「レンタルDVD」、（4）インターネットを通じ有料で視聴する「有料ネット」の4つのカテゴリーに分類した。その結果は図1のとおりである。

まず「無料放送」は「毎日視聴」している人が過半数に上り、他の3形態に比較し著しく視聴の頻度が高い（1-①）。但し「無料ネット」も「毎日視聴」と「時々視聴」を合算すると67%となり、「無料放送」の73%に迫る勢いであった（1-②）。また、「有料ネット」については「毎日視聴」している人は3%とまだまだ少ない一方、「毎日視聴」と「時々視聴」を合算すると14%となり、「レンタルDVD」のそれに近づく規模となった（1-③）。インターネットを介した動画の視聴について、今後の可能性を感じる結果であった。



< 2 : 有料ネット動画は 20 代が牽引 >

次に動画が「無料放送」「無料ネット」「レンタルDVD」「有料ネット」のどのような組み合わせで視聴されているのか、年代別に視聴者を分析した。結果は図2のとおりである。



まず「有料ネット」を含む4つの視聴形態全てを利用し、動画を視聴していると回答した人は、20代がもっとも高かった（2-①）。また、「無料放送と無料ネット」の組み合わせで動画を視聴していると回答した人は全ての年代において他の組み合わせを上回るとともに、年代間の比較では10代がもっとも高かった（2-②）。これらの結果より、10代を中心として全ての年代において「無料放送」に加え「無料ネット」が動画視聴の軸であること、また「有料ネット」を通じた動画視聴は20代が牽引している、と言えるかもしれない。

モバイル社会研究所では今後も動画視聴の実態について様々な切り口から紹介すべく、その状況について注視していきたい。

■調査概要（調査名 動画視聴の実態調査：調査方法 インターネット調査）

調査時期 : 2017年2～3月

調査対象 : 関東(1都6県)在住、15～49歳男女

標本抽出法 : QUOTA SAMPLING 性別・年齢・居住地で割付

標本サイズ : 6,000

■問い合わせ先

詳細なデータ、質問項目など、ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

株式会社NTT ドコモ モバイル社会研究所 msri-inq-ml@nttdocomo.com